

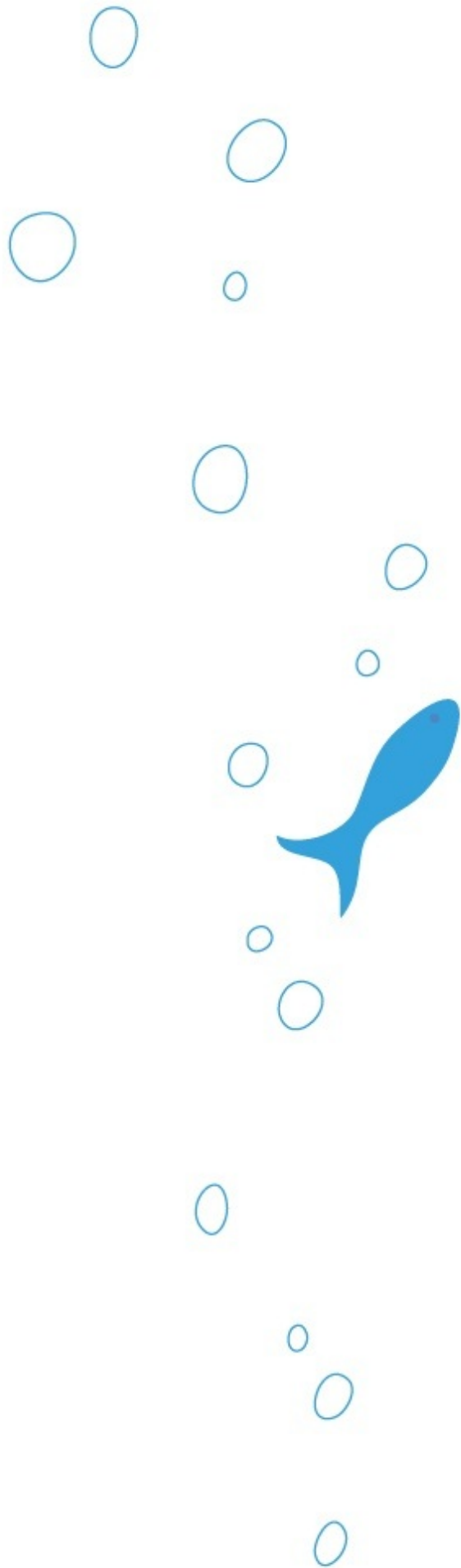


ムカシムカシ

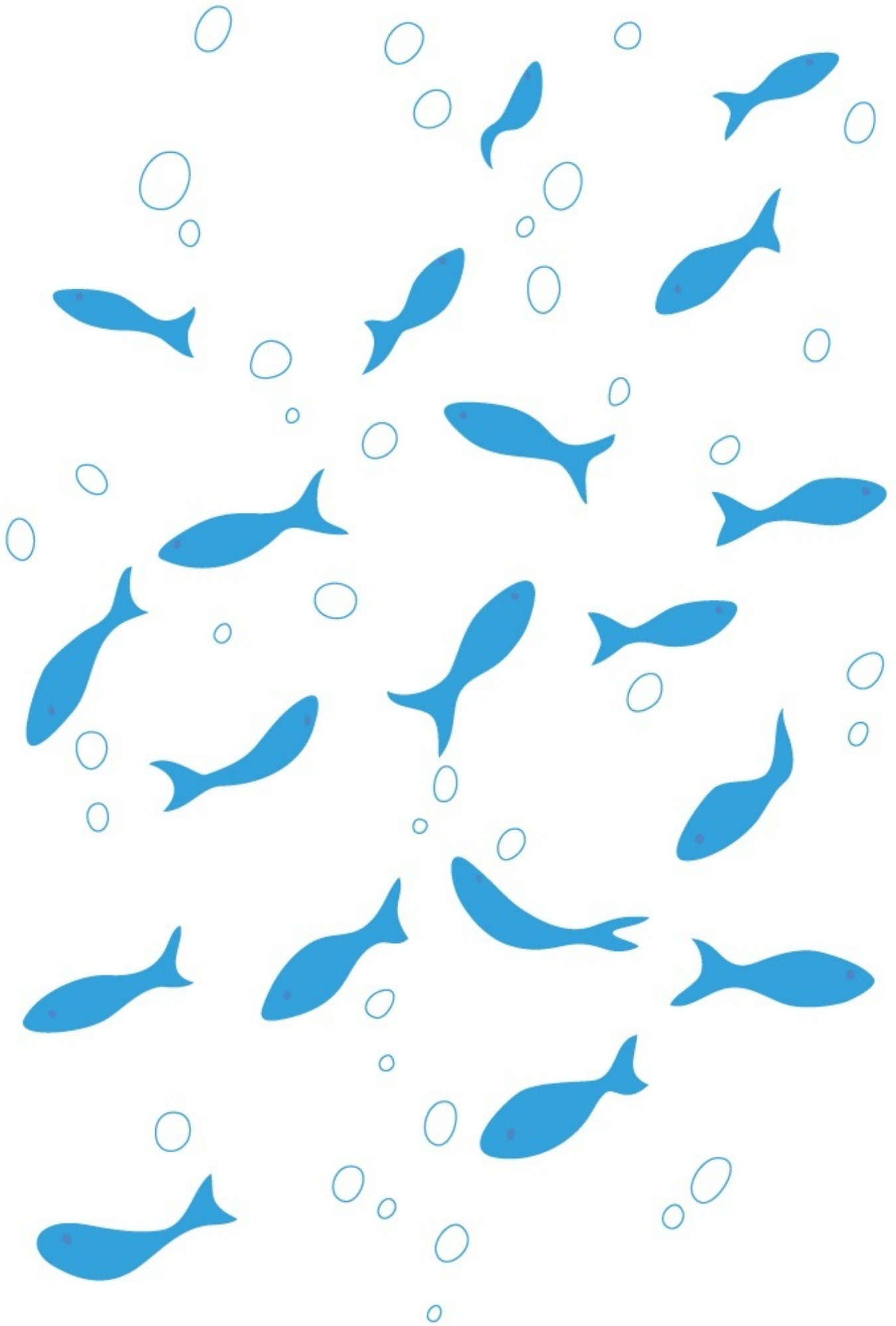
作・山脇 豊



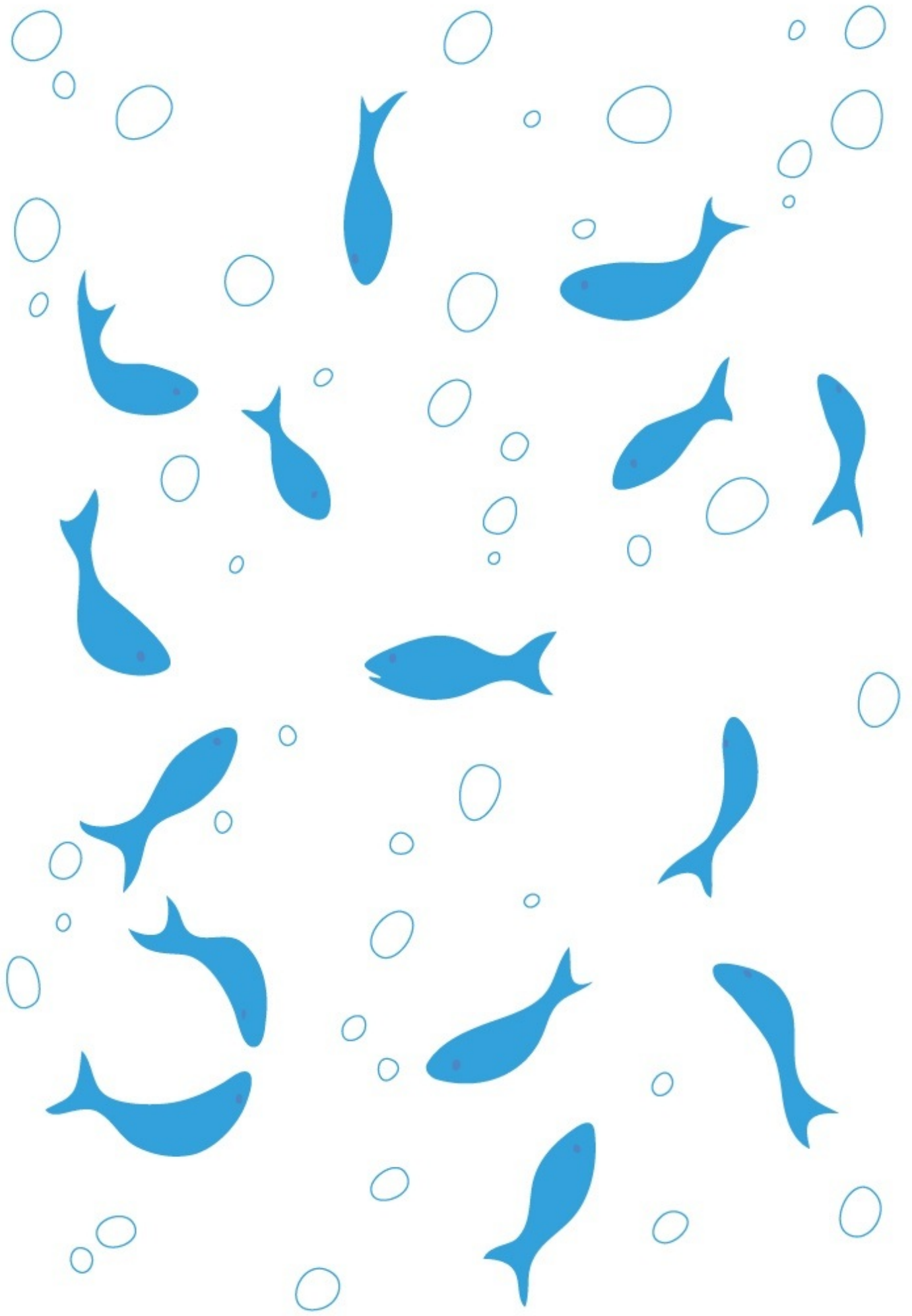
昔々、愛はどこにでも
ありました。



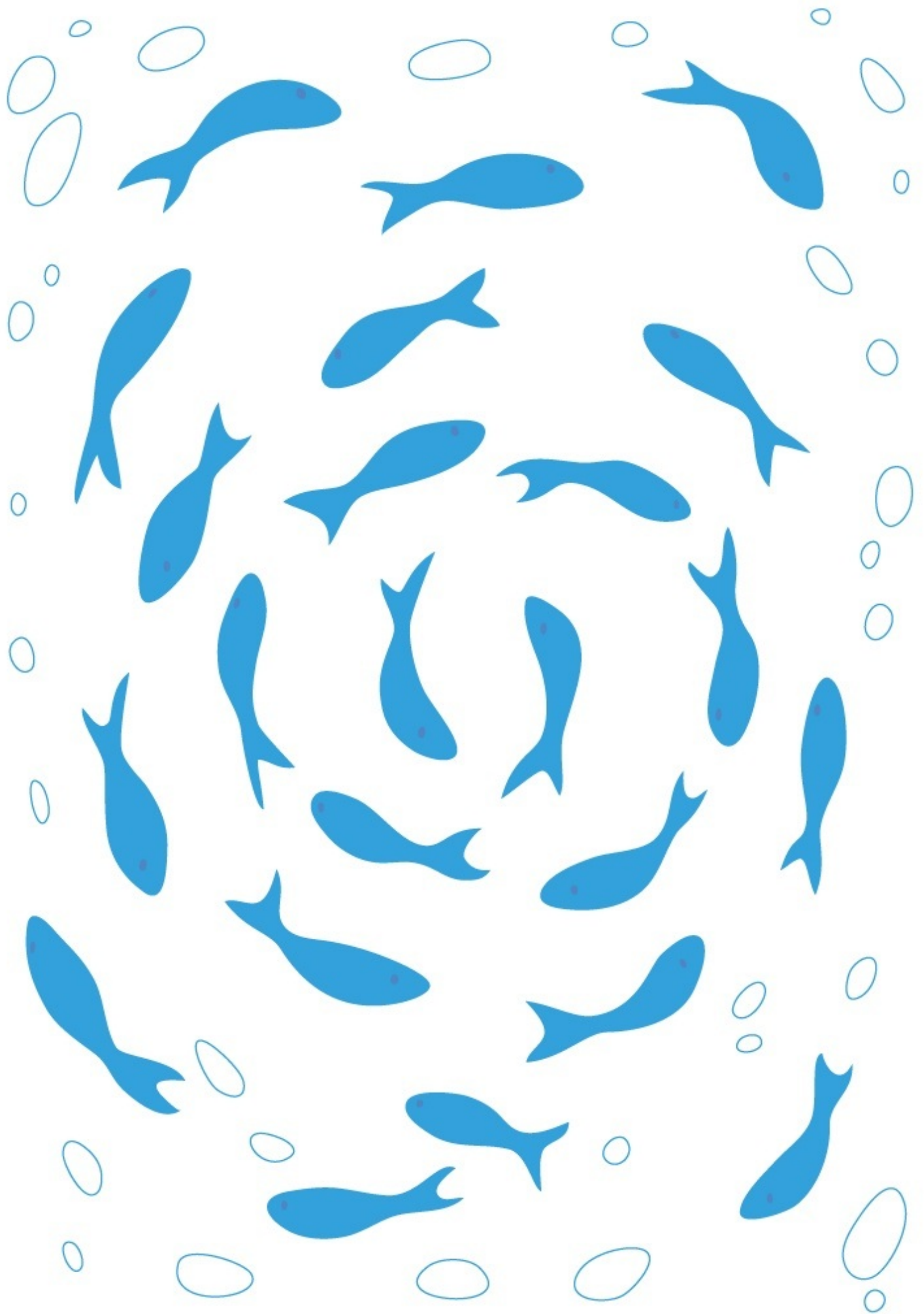
特別なことをしなくても、
誰もが幸せだったのです。



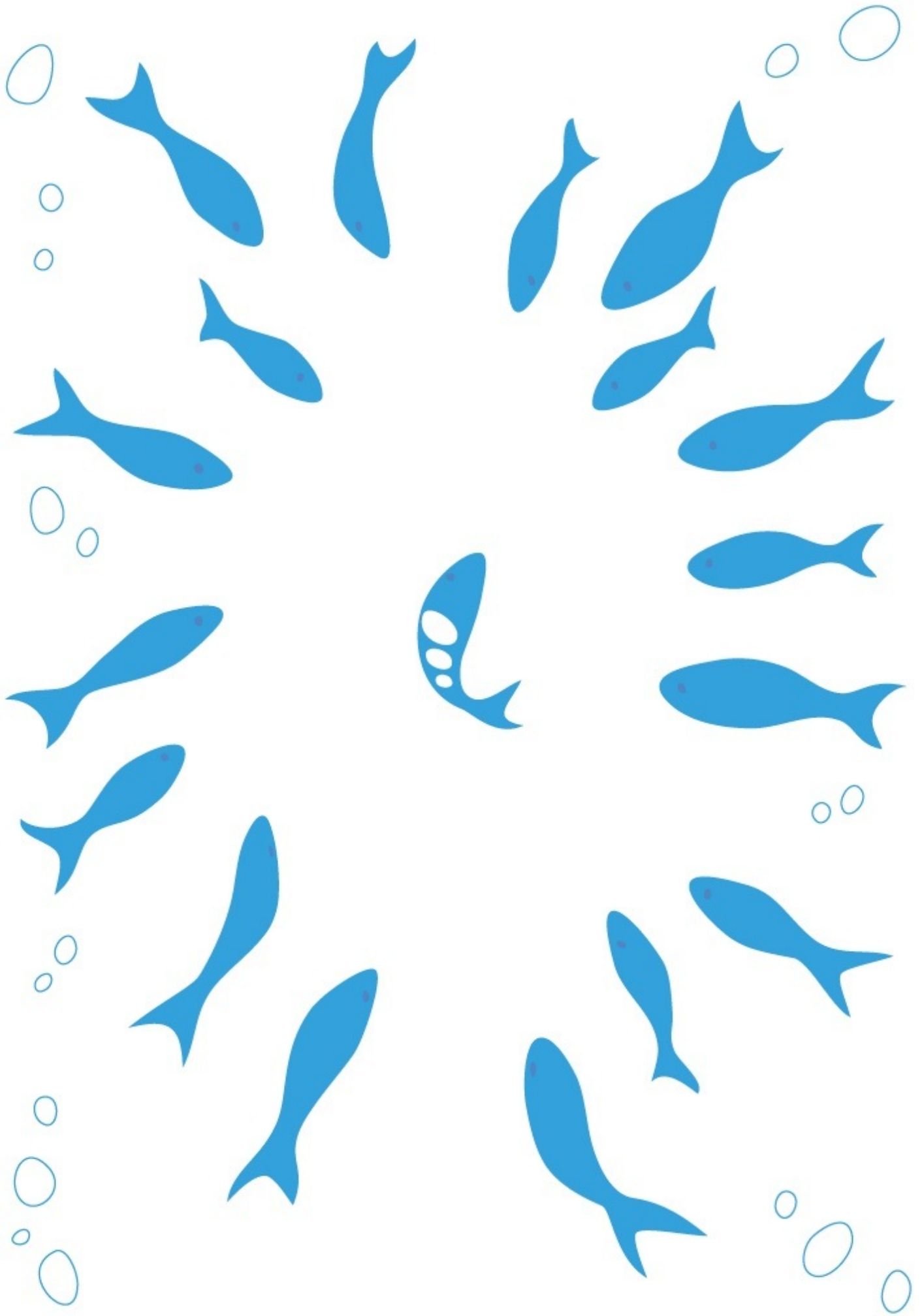
そんなある日、誰かが言いました。
『このままでいいのだろうか』



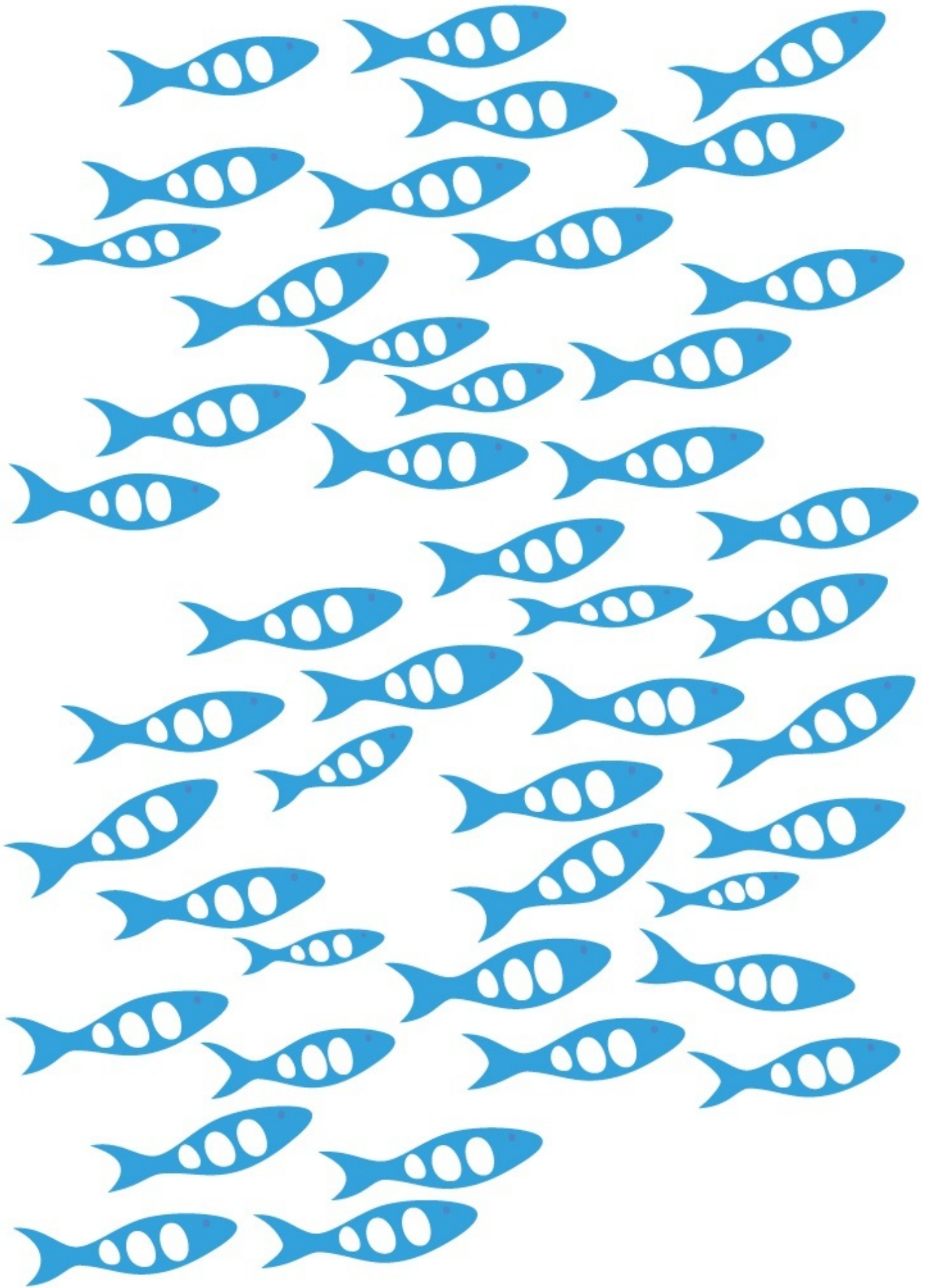
それを聞いて、誰もが不安になり、
話し合い、いろいろと悩みました。



そのうち、誰かが一つのスタイルを
考え出しました。



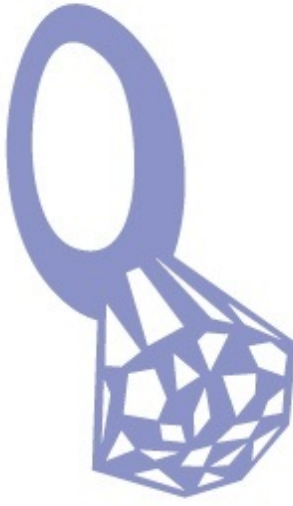
それを見て、誰もがいいと思い、
そのマネをし始めました。



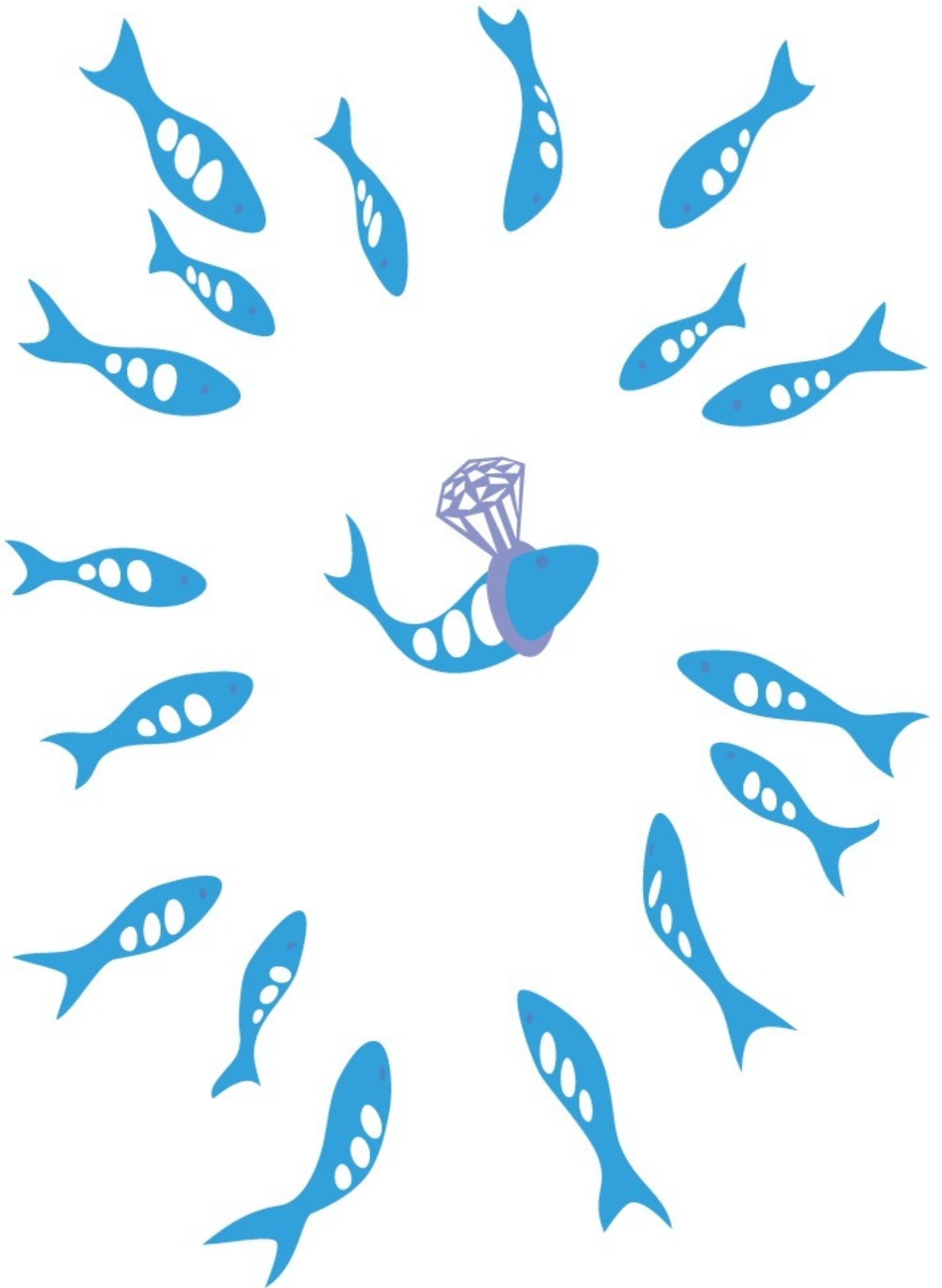
そうしているうちに、
愛は見えなくなってしまいました。



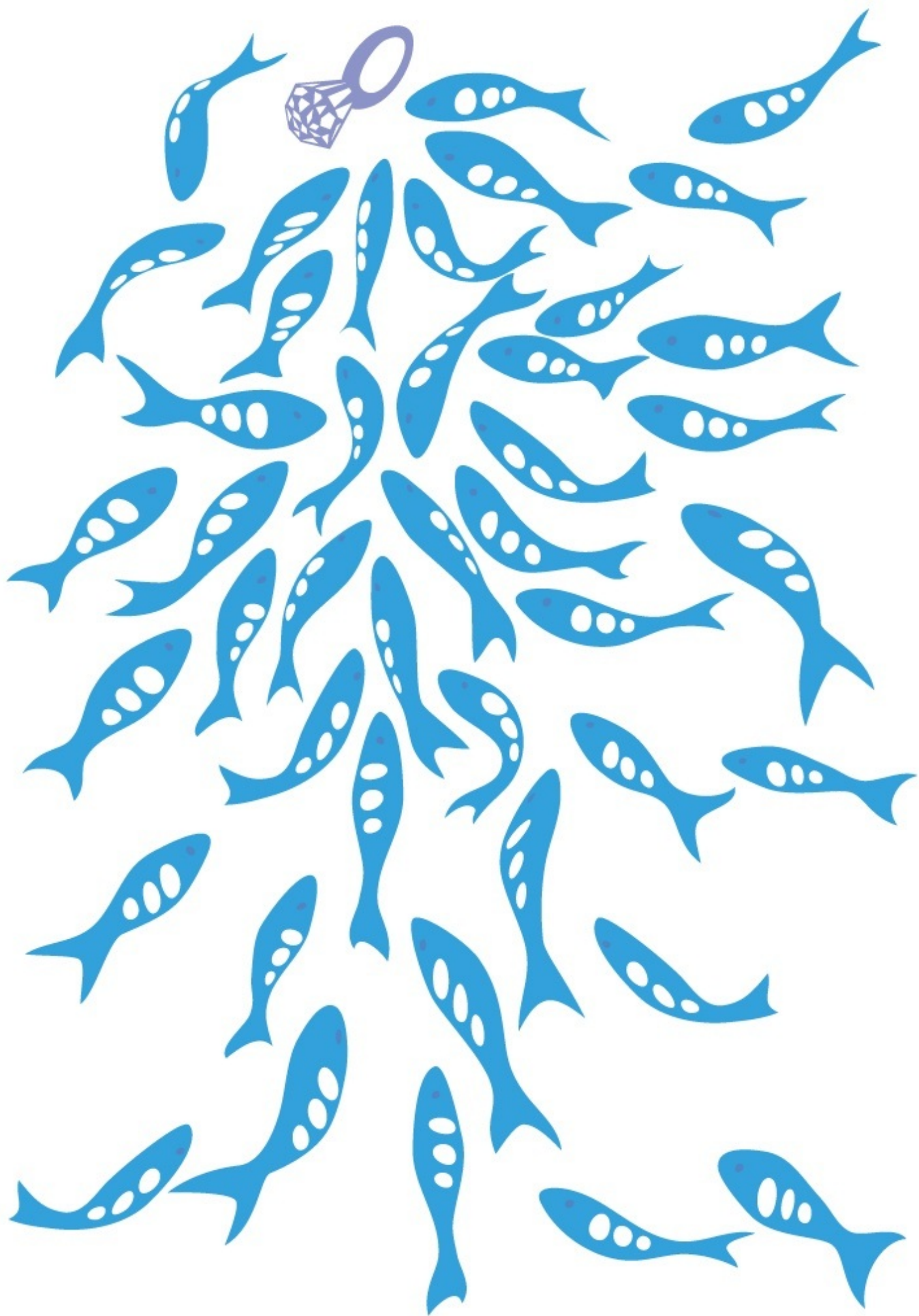
そんなある日、
誰かがピカピカ光る石を見つけました。



それを持っていると、
とても幸せそうに見えました。



誰もがその石を欲しがり、奪い合いました。



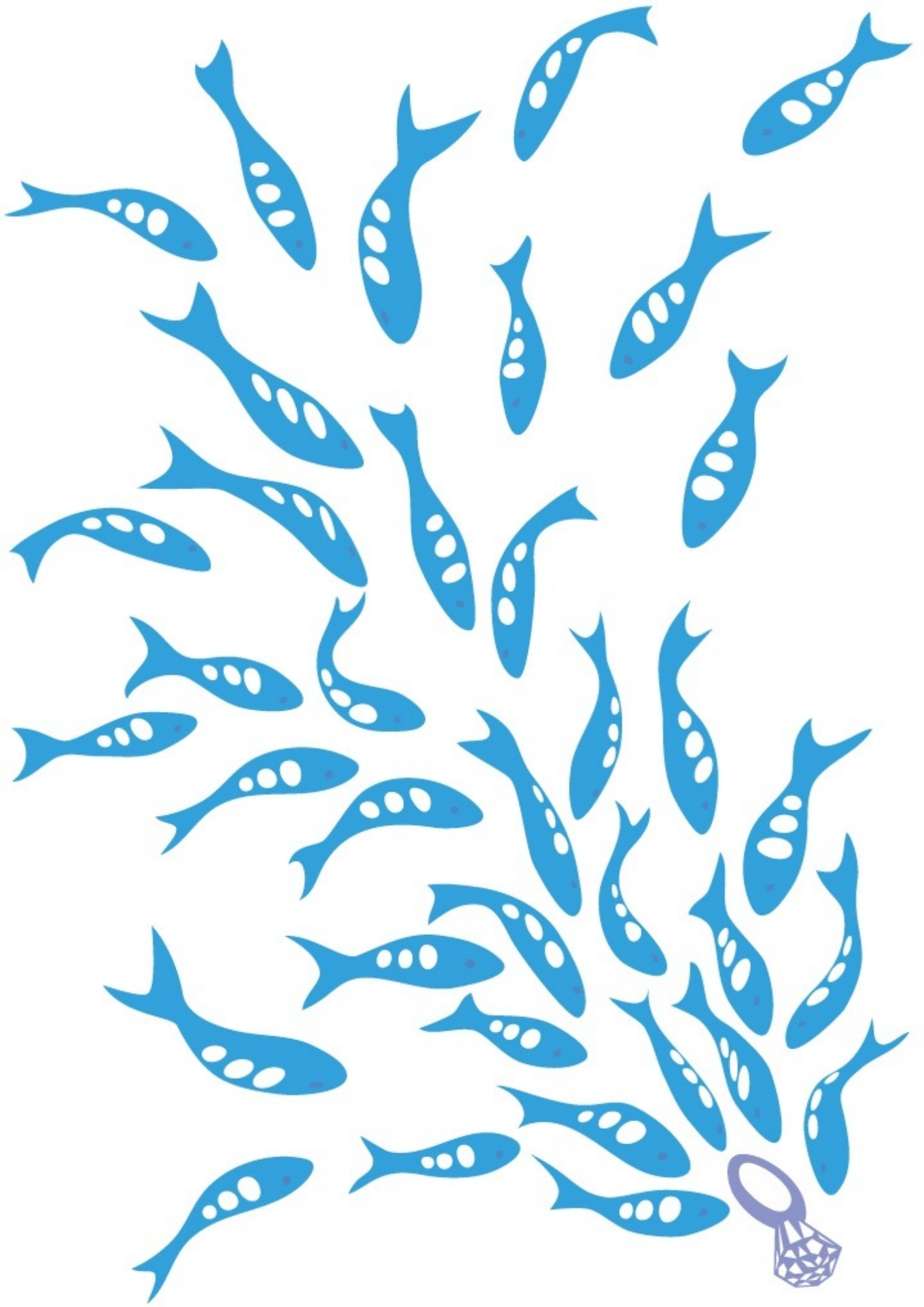
ところが、変わり者がおりました。

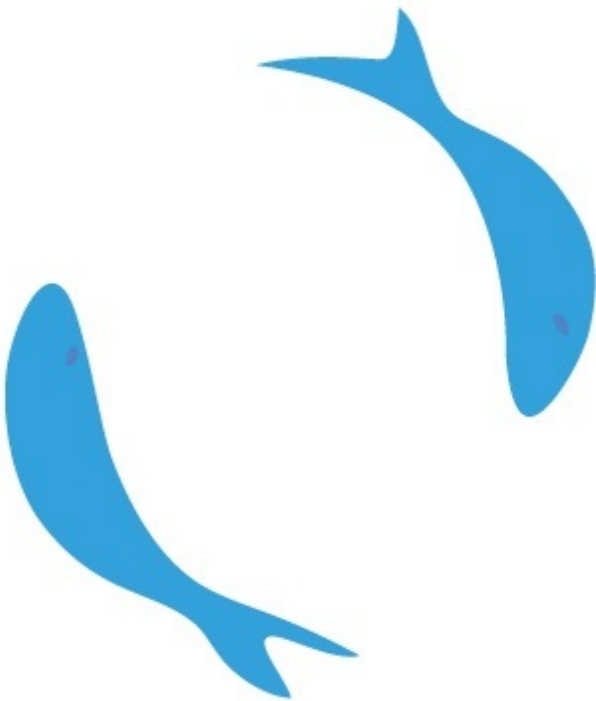




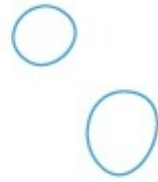
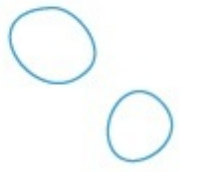
彼はその石を欲しがりませんでしたし、
みんなとは違うスタイルでした。



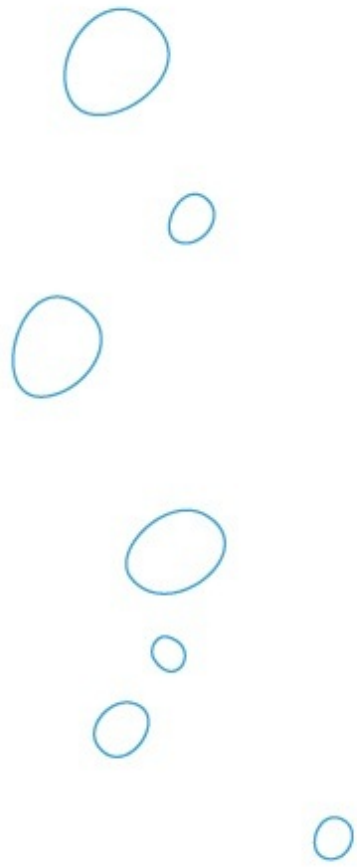




もしかしたら、
彼にはみんなには見えないものが、
見えていたのかもしれない。



そして今も、
愛はどこにでもあるのかもしれない。



おしまい



